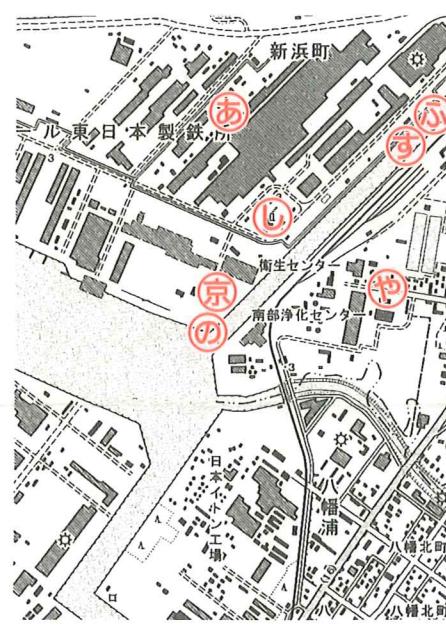


千葉市南部の郷土カルタ

(NPO法人ちは・生浜歴史調査会 08.12.17発行)

い=石鉤 日本国中 旅して来
ろ=老僧が わらじを脱いだ 地蔵堂
は=浜村は 江戸と茂原の 錢しづり
に=日泰は 大時化鎮めて 本行寺
ほ=本行寺 不受不施文書とお猿ご書
ヘ=平坦な 大地に築いた 服部古墳
と=遠き世を 偶ぶ浜野の 民俗資料
ち=血をみたが 庄八どんは負けて勝ち
り=両総に またがりできた 蔵屋敷
ぬ=盗人が 出没した 二重堀

る=累代の 森川氏の墓は 文化財
を=綜の音 塚七廻りして 幽かにし
わ=わが郷土 磯の香りと 黄金波



か=川幅を 拡げたばかりに 浜野川
よ=よろず世に残る 塩田の漁民の碑
た=旅人の あしあと残す 道しるべ
れ=連綿と 続く八剣の 神楽舞
そ=騒動を 起して出来た 小学校
つ=津波後の 菅公像は お宮入り
ね=ねぎ おおは 野菜どころの塩田町
な=楠公の 軍中膏は 有吉堂
ら=頼光は 八剣神社に 弓を捧げ
む=群田から 邑田 村田と文字をかえ
う=馬牛を 護る池畔の 観世音
み=泉谷 恵みの水が 争われ
の=のり漁業 明治末より 半世紀
お=陸蒸気 浜野の街を 乗せていく
く=国界だったばかりに 村田の渡し
や=やどりの 塩漬搾げ 江戸表
ま=まのの長 更級日記に 記録され

け=研鑽を 重ねて世直す 南翁師
ふ=船の旅 東京湾の 飛竜丸
こ=ご靈社の み盡は 生実藩護り
え=栄枯盛衰語る 小弓城
て=鉄筋の 中に納まる 土器石器
あ=あさり蛤の上に どつかと鉄の屋根
さ=散歩道 桜さくらの 大百池
き=金兵衛は 草刈堰で 世を救い
ゆ=往き復り 通る車は 5万4千台
め=メジロ ホオジロ庭先に遊ぶ おゆみ野の街
み=未発掘 わざと残した大古墳
し=潮干けば あさり はまぐり海の幸
ゑ=S Lの 火の粉で焼けた 萬徳寺

このカルタは、浜野町故白井三郎氏が平成2年4月に発行した『生浜を知ろう』(句と墨絵と解説文を執筆して「ふるさとかるた」と名づけ、いろは順に編集。)という本にもとづいて、絵は原本から縮小コピーし、読み札の文字は著者のご子息白井孝氏が書き、解説文はNPO法人ちは・生浜歴史調査会が監修しました。さらに、杉山堰用水や泉谷用水、入会内野の歴史的関係から緑区の椎名・おゆみ野・誉田地域も加えて印刷発行したものです。付図は現地散歩の参考に「千葉市南部の郷土カルタ」の各場所を地図に示したものですが、限定できない場所や埋め立てられた遠浅海岸に隣接する場所は適宜に記しました。

また、写真提供等ご協力をいただきました富岡山長徳寺様、都市機構千葉市原開発事務所様、千葉県教育振興財団様、千葉市立郷土博物館様にお礼を申し上げます。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平20業複 第570号)

印刷: 有限会社 タクト



ヤ=薬壺を手に 病苦を除く お薬師さま
ハ=畠中 繩文晩期の白き貝殻
ワ=分れ道に 道標を建てた椎名青年団
カ=上総 下総の両方にある古市場
タ=大膳野 田畠の肥やしに株刈る
ツ=土揚場は 桜並木の鴨田溝

ナ=中西と草刈との境に 杉山堰
ウ=ウォーキングは おゆみ野の春の道 秋の道
ノ=野田宿は 土氣御成道の馬継場
オ=おゆみ野は 緑区内の中心地
フ=古寺や 谷間をわたる 春の鐘
テ=寺子屋に 熱心な師匠がいた椎名村
ア=雨乞いの 龍の頭が舞い踊る
キ=旧生浜町役場庁舎 昭和レトロの心地よさ
シ=人物や馬の埴輪は 山武系
セ=千手観音を 山門で守る仁王様